

MUMBAI ムンバイ

写真・テキスト: バリー・シルバー

翻訳: 宮村 葉

この記事は NAMARUPA issue no.9 (2009 年発行) に掲載されたものです。NAMARUPA 共同発行人であるエディ・スターンおよびロバート・モーゼスの同意のもと翻訳・配布しています。

<http://www.namarupa.org/>



インド滞在中、ラッキーなことに私は週末をムンバイで過ごすことになり、ぎっしりと予定が詰めこまれたある1日がスタートした。そこで私はインドの人々のスピリチュアリティを今も生き生きとさせ続けるものを目の当たりにすることとなった — 古代から続く寺院での礼拝、精神的指導者の教え、そして大勢の人々であふれる聖なる祝祭。

アラビア海を臨む街の中心部にあるブブルナート寺院。夜明け前に開始されるプジャ（神々へ捧げる儀式）から一日が始まった。私はインドでは南インドで過ごすことが多く、そこでは通常神々への直接の儀式は司祭のみが行う。花や果物、牛乳にサンダル・ペーストなどを使い、プジャを自分の手で行える北インドのスタイルは私にとってはとても特別なものだった。

その後タクシーへと乗り込み、アドヴェイタのマスター、ラメッシ・バルセカール師を訪ねた。師は91歳になった現在も、ほぼ毎日リビングにどんな訪問者も受け入れ、気軽なスタイルでサットサンガや質疑応答に応じている。ユーモアを交えた気取らない雰囲気の中、ラメッシ師は非二元論をベースとしたストレートなメッセージを送り続けていた。

そして夜はISKCON ハレー・クリシュナ・ハレー・ラーマ寺院としても知られる、ラダ・ゴピナート寺院を訪れた。その日は「プシャヤ・アビシェーク」と呼ばれる、春が始まる日を祝う儀式が行われており、寺院は参加者の熱気が溢れていた。熱狂的なチャンティングやダンスが何時間も続き、この日のためにヴリンダーヴァンから送られた色とりどりの花びらのシャワーが大量に降り注ぎ続ける。まるでジョージ・ハリソンのレイブはきっとこんなだったろうと思うような光景だった。

不安定で暴力の脅威が絶えず、近代化と物質主義が押し寄せるインドの現在。しかしこのたった1日を過ごしたことが、古代からのさまざま伝統が現在も生き生きと保たれ、それらは意志がある者には誰にでも開かれていることを思い出させてくれたのだった。

注) この記事は2009年2月発行のNAMARUPAに掲載されたものです。ラメッシ・バルセカール師は同年9月に92歳で亡くなりました。

バリー・シルバーは現在東京でヨガを指導している
www.ashtangayogiyogi.com / www.barrysilver.net





ブブルナート寺院



ラメッシ・バルセカール

神よ、

これはあなたへの永遠なる感謝の記録である。

あなたは私をヒンドゥの名家の一員としてくださった。
しかし驕るほどの高い社会的地位は与えてくださらなかった。

あなたは人にうらやましがられるほど完璧な身体を与えてくださった。
しかし威張りちらせるほどには大きくしてくださらなかった。

あなたは人生に必要な十分な教育を与えてくださった。
しかし吹聴して回るほどの高い教育ではなかった。

あなたはスポーツでの成功と満足をも与えてくださった。
しかしそれも言いふらすほどのものではなかった。

あなたは尊敬に値するキャリアを与えてくださった。
しかしそれで傲慢になれるほどのものではなかった。

あなたは妻と家族を与えてくださり、私は彼らにいつも感謝の気持ちを忘れない。
しかし人生とはどういうものか忘れない程度には苦痛を与えてくださったおかげで、
いつも今持てるものへ感謝をささげることができる。

あなたは私の通るべき道に十分な誘惑を仕掛けることをお忘れにならなかった。
おかげで誘惑と向き合う人々に対して厳しすぎることなくいられるのだろう。

今は84歳となり、おそらく最後の望みは、あなたが与えてくださったこの長い人生の最後に何も背負うものが無いことだ。しかしそうなったとしても、あなたは旅立ちに必要な勇気を与えてくださるだろう。

あなたは本当に必要なものがいかに少なく、多くのものが手放しうるかを示してください。

そして、まるであなたがこれまでもたらしてくださった贈り物では十分ではないかのようだが、間違いなく最大の贈り物は、我々のこの心身という仕組みを使い、アドヴェイタの最も重要なメッセージをこの世界に伝えられたことである。私は真に祝福されている。あなたはあなた自身を祝福したことはないのだろうか？

そして私は気づく、あなたが現象界のために創造された存在なのであれば、今のこの状態と大差はないということに。

だから涙では、この思想をもたらしただあなたへの感謝は到底表せ得ないのである。

ラメッシ・バルセカール

「The Ultimate Understanding」 Yogi Impressions Books Pvt. Ltd.より
www.yogiimpressions.com



「究極の理解とは何か？」という問いに、ラメッシは「何かを理解している者などどこにもいない。」と答える。彼が強調するのは、彼が語ることの全てがコンセプトであり、そのコンセプトを人々が受け入れるかどうかは彼にとって重要ではない、ということである。「受け入れられるかそうでないかは神の意思、そして個人の運命との関わりによるものだ」。

ラメッシによれば、多くの精神的指導者が弟子達に「エゴを殺せ」と教えてきたが、これが大きな混乱を生んでいるという。対照的にラメッシの教えのポイントは「エゴを変換すること」である。この教えと個人的な体験を通して見えてくると、それはブッダがシンプルな真実であると説いたように「出来事が起き、物事が為される、しかしそれを行う行為者はいない」というものである。

ラメッシはさらに、私達の混乱の主な原因が「誰が何を求めるのか？エゴとは何か？エゴがなにを求めるのか？」という問いに潜んでいるという。

エゴは自己実現を求める。そしてエゴは、この人生において理解され評価されることのみで満足を得る。自己実現とは単にエゴを実現させることであり、エゴそのものは行動の主体ではなく、物事は単に人間のメカニズムや機能を通して起こるだけである。これを理解することで、個人が行動の主体となることから起こる罪悪感や恥、プライドや傲慢は無効となる。その結果、平和と調和そして自由、これらの計り知れない感覚がもたらされる。

ラメッシからもたらされる教え、「存在する全ては意識である」は純粋なアドヴェイタの教えである。そしてその教えのインパクトは、彼の「全的理解」の力に支えられおり、自身の経験を通した言葉だからこそ、彼の教えは「今、ここ」に届くのである。

©www.rameshbalsekar.com

ॐ ॐ

ISKCON ハレー・クリシュナ・ハレー・ラーマ寺院 プシャヤ・アビシェーク



「この素晴らしいフェスティバルは献身のフェスティバルです。どうか目で見るだけでなく、自身のハートを、そして聖典と偉大な聖人から得た知恵を通して見てください。儀式はクリシュナ神へ捧げると同時に我々の心の浄化を願って行われます。人生のあらゆる場面においても愛がもたらされることを願いながら。」
H.H.ラダナート・スワミ・マハラジャの開会スピーチより



シュリ・カストゥーバ・ダスによるプシャヤ・アビシェークについての魅力的な紹介文はこちらを。 bhakticollective.com
bhakticollective.com/2009/02/12/flower-festival-in-mumbai/#more-779

バリー・シルバーの写真、スティープン・クラスネアンスキーのスライドショー「Flower Shower」。 bhakticollective.com/2009/02/13/803/

**2012年にブブルナート寺院とフラワーフェスティバル
が行われていたラダ・ゴピナート寺院を再訪した際の模様**







